

報告者：小野敏夫

Cグループ“知り合い隊”リーダーの小野です。この活動で大田区のいろいろな会社を訪問させて頂きました。今回はその中で典型的な従業員数20名程の会社での例をご紹介します。

町工場だと思って行ったところ、会社の門からは社屋が全面シャッターや壁で仕切られており、中が見えません。音も殆どしません。どうやら事務所と思われるドアを見つけ、2階に上がり、専務と名刺交換をすることが出来ました。すると専務から「機密保持契約書は持ってきましたか?」と問われました。こちらはまずご挨拶とと思っていましたので用意していませんでした。すると「機密保持契約が無ければお話は出来ません」とのこと。これが大田区の会社です。専務は「私は大田区の会社とは思っていません、お客様や技術交流している人達は世界中が相手です、たまたま会社が大田区にあるだけです」とのこと。世界のオンリーワンの世界です。

さらに「ITコーディネータ協会って何者?」、「こうやって協会だの経済産業省だのと言ってくるウサンクサイ団体がいっぱいあるんだよね!」、「何でNPOなの?NPOってあやしい団体が多いんじゃない」という会話から始まった初回訪問です。企業内ITCで社外での実践活動の経験の無かったメンバーにはきつい場面でした。しかし時間を掛けて丁寧にご説明させて行く内に、互いの会話もなごやかなものとなり、専務のお話もつい饒舌となって頂くようになりました。

しかし「ITのことは分からないんだよね」の専務の言葉の裏にはITのことを熟知した自信が見え隠れしていました。

今後このような会社とITコーディネータのコラボレーションも是非実現して行きたいと思いが一杯です。